

本学薬学科の大滝 康一 准教授と手稲地区の医師会、薬剤師会、歯科医師会の 3 師会との共同事業について、薬事日報に掲載されました。

## 薬事日報

第12800号 2023年10月11日

### 【薬剤師会など3師会】札幌手稲でフォーミュラリ-来月下旬にも実運用開始

トップニュース



01面



印刷



同号一覧

北海道札幌市手稲地域の医師会、薬剤師会、歯科医師会は、来月下旬にも「ていね地域フォーミュラリ」の運用を開始する予定だ。現在準備中で、既にフォーミュラリ第1版を作成し、医師会でパブリックコメントを募集している段階にある。正式に決定されれば、実運用を始める。高脂血症治療薬のスタチン製剤、プロトンポンプ阻害剤(PPI)などの経口酸分泌抑制剤、歯科診療では抗菌薬・鎮痛薬の4薬効群で開始する。医療費削減効果なども検証する予定で、手稲地域で実績を作り、札幌市内全域に地域フォーミュラリを広げていく起爆剤にしたい考えである。

手稲地域の3師会は、手稲溪仁会病院で実施していた院内フォーミュラリを土台に、昨年2月から地域フォーミュラリを検討。今年6月にはワーキンググループを立ち上げ、地域フォーミュラリ名を「ていね地域フォーミュラリ」に決定した。

8月にはフォーミュラリの内容を検討するため、三師会から推薦された役員や手稲区保健福祉部、手稲区内にある北海道科学大学薬学部教授などのメンバーで構成された「ていね地域フォーミュラリ委員会」を計3回開き、フォーミュラリ第1版作成に漕ぎ着けた。

フォーミュラリは、先行している茨城県つくば地区の推奨医薬品リストを参考にしている。スタチンは成人高コレステロール血症を対象とし、推奨薬が「ロスバスタチン」、オプションが「アトルバスタチン」「ピタバスタチン」とした。

経口酸分泌抑制剤(PPI/P-CAB)は、推奨薬が「ランソプラゾール」「ラベプラゾール」「エソメプラゾール」(カプセル)、オプションとしては後発品がない「エソメプラゾール」(顆粒)、「ポノプラザン」を選んだ。

一方、歯科診療で用いられる「抗菌薬」「鎮痛薬」に関しても推奨薬とオプションを選定し、地域フォーミュラリを運用していく方針である。

現在、フォーミュラリ第1版について医師会でパブリックコメントを実施中。手稲地域の医療機関からの合意が得られれば、来月下旬に開催される地域フォーミュラリ委員会で承認し、運用を開始する予定だ。運用開始後は、供給不安が続いている後発品など医薬品流通の状況を見ながら、推奨薬を柔軟に見直す。

委員会メンバーとして参加している北海道科学大学薬学部が地域フォーミュラリの医療経済効果を検証し、研究成果を論文化することも計画している。

札幌薬剤師会手稲支部の澤田博文支部長は、「地域フォーミュラリ運用で在庫管理など煩雑な業務が減り、対物業務から対人業務への移行が進む」と期待感を示す。

医師会との連携については、「非専門医とコミュニケーションを取り、特に多剤併用の課題解決に取り組んでいきたい。在宅患者に対しても、地域フォーミュラリを通じて医師や病院薬剤師と連携したサポートが行えるのではないか」と述べ、多職種・薬業連携の推進が見込めるとした。

札幌薬剤師会には11支部あるが、地域フォーミュラリは手稲支部が初の試みとなる。澤田氏は、「全ての支部が地域フォーミュラリに前向きな姿勢を示している。手稲支部が旗振りし、医師会との連携を通じて他の支部にも広げられるようになれば」と意気込みを示している。



01面



印刷



同号一覧